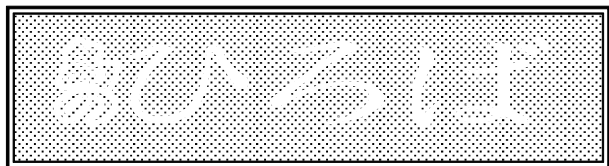


# 時得「国民、住民の苦難を解決することが日本共産党立党の精神です。この初心を忘れず活動してきました」



時得孝良議員



第551号

「島のひろば」編集委員会

電話 04992-2-8256

Eメール jcposhima@yahoo.co.jp

www.3plala.or.jp/jcposhima/

(検索サイトからは「日本共産党 伊豆大島」)

くらしの相談は共産党町議団へ

時得2-8256 橋本2-3614 小池2-9318

日本共産党の見解を紹介します

## 引退する時得議員に党町議団の活動を聞く

編集部 今期でいよいよ引退ですね。  
時得 難聴が進み、年齢のこともあり決断しました。

編集部 長い間ご苦労さんでした。早速ですが、先輩議員も含め、共産党町議団の活動を振り返って印象に残ったことを伺います。

時得 日本共産党は、国民や住民の苦難や困難を軽減・解決することが実は立党の精神なんです。この精神に立って3人の議員団で「困っている人、そして今はいりわけ被災者の声に

耳を傾け、その声を町政に届けよう」と力を合わせ活動してきましたが、反省する事が多いですね。

編集部 「島のひろば」や議会毎に出している議会報告をひもとして見ますと、一期4年で15回、16年では3人で180回ほど一般質問ができますがこの機会を使い住民の声を届け、結構実ったものがありますね。

川島町政以前の例から紹介して下さい

### 困っている人の声を届けて川島町政以前

### 地元で人工透析が可能に

時得 先ず先輩議員の例ですが、腎不全の皆さんが地元で人工透析ができず、家族ぐるみで島外へ引越す方も多く、「地元で透析を」の声は切実でした。川島議員(現町長)はこの問題に取り組み、時間ばかりでしたが

## 緊急通報システムを導入

時得 最近、すぐ近くに住む知り合いの高齢の女性の方も設置しましたが、皆さんから助けを求めたいときに使えて「安心」と言われています。

### 川島町政の4年間では

編集部 この4年間は、若い小池議員も加わり、新しい3人組で声を届けてきましたね。

### 防災無線戸別受信機未設置 世帯を解消

時得 「こちらは防災大島です」でおなじみの「防災無線戸別受信機」は、あの三原山大噴火の後、町が無償配布したもので



すが、移住者を含め未設置の家庭も増え「災害情報を全ての住民に」の立場で議員団は未設置解消を求めてきました。

川島町政は、未設置解消でなく、新しい受信機を全世界に無償で貸与することを決断し、実行されたものです。

### 小中学校にエアコン設置

時得 近年、地球温暖化のせいが大島も猛暑に見舞われることが増え、「子どもたちが学習に集中できるように」取り上げてきました。なかなか実現せず、ようやく川島町政で全ての普通教室に設置が実現しました。

### 在宅酸素療法患者に電気代助成

時得 肺気腫などで在宅で酸素療法をしている患者さんから「一割負担でも機械と電気代で1万円以上かかり大変」との



酸素濃縮機

要望を取り上げたわけですが、月額2000円の助成が実現したものです。

### 地域循環マイクロバスを運行

時得 路線バスから遠いところに住む住民から、「ワンコイン(500円)で医療センターや買い物に往復できる小型バスを」との声が寄せられ、皆さんと署名活動もし、1300筆以上集め町に陳情、議会でも取り上げてきました。

町もこの声に応え、試験運行を始めましたが、「助かるよ」との声の一方、「まだまだ不便で利用しにくい」との声もあり、町も改善めざし取り組んでいます。(御神火温泉経由など)皆さんの提案・要望をお寄せください。

### 「孤独死なくせ」 安否確認見守り 事業を導入

時得 近年、一人暮らしの高齢者が入浴中などで亡くなる「孤独死」が大島でも話題になっていますが、南部で「孤独死」が続いた例を取り上げ、

### 被災者の皆さんに寄り添って

編集部 未曾有の大災害から一年半を迎えようとしています。3名の行方不明

事業者などのご協力で安否確認の見守り事業をつくるよう提案しました。

町は現在、運送・配達業者、新聞店、燃油業者、検針関係業者など6業種26業者の皆さんの協力で、「高齢者等見守り事業」に取り組んでいます。

お話を伺う前に、編集委員会を代表して、犠牲になられた皆さんのご冥福をお祈りし、被災者の皆さんにお見舞いを申し上げます。

### 住家(全壊・複数世帯)新築・購入等支援

国(住家)	200万円
町(住家・店舗等)	300万円上限
町の義援金	500万円
町の修理費補助(住宅・店舗等)	100万円上限



橋本ひろゆき議員



小池しょう議員

### きめ細かな独自の 被災者支援

時得 国の建物再建支援は、住家のみが対象で、しかも全壊と大規模半壊だけです。半壊やそれに近い床上浸水などは支援されません。

町議団は、町独自に義援金なども活用して、住宅再建に希望が持てる支援や支援対象を広げる等、きめ細かな被災者支援を提案してきました。

さて、被災者支援についてもこれからが本格的になると思いますが、これまでの町議団の取り組みについて伺います。

編集部 引退後も健康を活かしてがんばって下さい。どうもありがとうございました。

### 山田ただたかの 議会傍聴記

三月九日、時得議員の最後の一般質問を傍聴しました。冒頭急逝された小坂議員への哀悼の意を表した後、時得議員は、「住民の困難、苦難を少しでも軽減するため、その声を町政に届け、解決すること共産党議員の役割と考え、活動してきた。」と述べ、第一に取り上げたのも「困っている住民に心寄せた町政を」で、具体的には、「波浮港から上の山への階段に手すりの設置を」との住民の声でした。時



山田ただたか党大島復興対策本部事務局長

得さんが16年間、どんな思いで議員活動してきたか実感をもって受けとめることができ、「私もがんばらなければ」と決意新たに議場を後にしました。

## 大島文学・紀行散策

学者・評論家編

兼常清佐(音楽学者)

「波浮の港・差木地村」など

三

427 時得孝良

### 【そふあどんの唄(承前)】

「そふあどんの唄」について、兼常は「日本民謡集 伊豆の大島」という自身の論文の中で次のように解説している。少し長くなるが、資料的にも価値があると思うので引用紹介する。

《これは今の日本にある民謡の中でも、おそらく、きわめてめずらしいものの一つであろうと思う。大島よりほかの所に、この唄があるかどうか私どもは知らない。大島でもこの唄を唄うことのできる人は、私どもはただ一人出合っただけである。それは大島の野増村の七十を越したお婆さんである。》

このお婆さんは、決して人のもてなしのものを食べないし、一杯のお茶さえも飲まなかった。・・・お婆さんは何事も私どもに話さなかった。このお婆さんから、物を聞き、唄を聞くことはかなりの骨折りであった。この唄は、そのような淋しい人の口から唄われたものである。

あるいはこの唄には、昔のいろいろな夢の名残りがまだ消えないでいるのかも知れない。しかしそれは私もエトランゼには何も分からない。唄の意味も、この文句からでは

ほとんど察しられない。唄った人の話によれば、「そふあどん」は一種の念仏であるという。人が死んだ時に御詠歌のようにそれを唄ったものだそうである。しかし、この唄の全体がかならずしも念仏だとも思われない。また、このお婆さんはこの唄を唄った。この唄は四代も前のである。その人の話では、「そふあどん」というのは、「そふあどん」ともいって、人の名である。この人が伊勢の国から大島に流されて来た。そしてその故郷を懐しがって唄った唄がこの「そふあどん」である。この話も大島の伝説の一つである。この話から見れば大津が見える。『これから見れば大津が見える』というふうな文句は、日本の方々にある文句である。

また、このお婆さんは別の話もした。それはこの唄の七節についてである。その話は、そふあどんは大島に来た時は、住む家もなかった。そして畑にナスをまいた。そのナスは大いに実った。しかし一人でそのナスをとつてもとり甲斐がなかった。それで淋しいそふあどんは、それをまぎらわすためにこの唄を唄ったのである。(以下次号へ)